今、住宅会社の働きから目が離せない。
活動領域はさまざまだが、
それぞれの土地柄、会社の性格、
そして会社をリードする社長の性格、
マーケティング戦略……。
これは、その個性的な活動で
地域に生きる会社のドキュメント。

「檜づくりへのこだわり」から

代表取締役社長
谷川喜一さん

谷川喜一（たにがわ・きいち）／1971年長崎県生まれ。94年慶早大学法学部卒業。97年谷川建設入社。代表取締役社長に就任。07年より谷川商事代表取締役社長兼任。

先々代が谷川商事を立ち上げた。材木の製材加工業だった。ひと山買って木を下ろし製材し販売する。時には「そんな使い方をするやつには売らない」と買い手に断ったりした。木への愛情深い人だったらしい。先代が業務を引き継がれたのは19歳のときであった。そして木への愛着と事業拡大の情熱が谷川建設を誕生させた。そして1997年、息子の谷川喜一さんが社長に就任した。25歳だった。「10年修業してから会社を継ぐつもりだった」。それが突然、呼び戻され、会社をまかされた。父上は今、会長職で健在。谷川家の帝王学だろう。

学校を出てから3年間住宅メーカーで営業マンとして働いた。営業としてのやりがいときびしさを経験した。長崎県は住宅着工戸数が全国でワースト10にまで減少した。そのなかで谷川建設は着々と業績を上げてきた。前年比10%増。県外へも支社を増やしながら昨年の完工棟数は582棟。トータルな売り上げ196億円。この状況のなかでは驚異といえるだろう。

こだわりのなかで家づくり

去年、福岡地区では全国規模の大手メーカーを着工戸数で凌駕した。そのポイントは家づくりへの情熱だ。「谷川建設には大手メーカーのような制約がない」と言う。東京から戻って気づいたことは「ここでは消費者に直結しているから、ここまでやるかというところまでやる」。「施主の満足のために」。「施主は人、材料、工事、資金などなどあらゆることに不安を抱いている」とも言う。「その不安に安心の答えを返す」。「間違いがないという信頼感で返す」。

そのためにすることはさまざまにある。その1、素材へのこだわり。基本は芯もちの檜材。製材業の出身だから木にくわしい専門家6人が仕入れる。選別に力を尽くす。そして九州最大の自社のプレカット工場でカットする。

それ以外にもうひとつのポイントがある。お引き渡し後にお施主さまにアンケートで家、担当者、会社すべてを評価してもらう。その後に社長自身がすべての家を訪れる。年間600棟の家を谷川さんが一軒一軒訪れ感想を聞く。ウイークデーは施主も谷川さんも忙しい。自然、土日になる。年50週の週末を使うとして計算上は年に100日。1日6軒をまわる勘定になる。時に話が長くなると2時間。自社製品の改良ポイントを探り、CSに生かす。徹底している。

攻撃型ビジネス

九州のハウスメーカーでありながら、東京に支社を出した。世田谷区の駒沢に展示棟をつくり営業をする。競争の激しい地域をねらっている。「5年かかって収支バランスは損益分岐点に達した」。「あと5年でどこまで行けるかが勝負だ」と言う。設計4名、営業5名、工事4名、ほかに管理部門がある。投資は大きい、しかしあえてそれをやる。1階部分はRC造、2階は木造の混構造。シンプルなデザインで成功している。時に1戸、1億円を超えるクオリティの高い住宅も受注している。そしてそのデザイン経験が九州での設計にもプラスになっている。問題があるとすれば谷川建設が36年たってそろそろ定年退職者が出ること。それも経験豊富な社員ばかりだ。だから今年も12人の新入社員をとった。「人材教育がとにかく大事だ」ということ。

目を環境に転じ

「木を使う仕事だから企業として今後考えなければいけないことは環境への取り組み」と話す。「植林、森の育成にかかわらないと」という意志がある。そんな流れのひとつになんとベビーベッドがある。「女性に、主婦になんらかの形で社会還元できないか」。これを社内で討議し、生まれたアイデアが檜を使ったベビーベッド。九州大学の先生と組んで開発を始めた。「ゆっくりと揺れる揺りかご」。「お母さんが授乳しやすい仕掛けも配慮されている」。

理想と社会還元、そしてビジネスが両輪のようにみごとにまわっている。10年を経て若い社長のエネルギーとアイデアは会社の発展にさらなるスピードアップを促している。

Tanigawa Kensetsu Tanigawa Kichi

写真右／社長就任10年目の谷川さん。左／モデルハウスのダイニングキッチン。システムキッチンはTOTOキュイジア。

写真／山下恒夢

Tanigawa Kensetsu

写真左上／NBCハウジングステーションにある谷川建設のモデルハウス「LEBENS」。下右／主寝室。中央の壁右手に書斎コーナー。ぐるりと回遊できる。下左／和室は床の間、書院、襖側障子など、日本古来の和の空間を最高の檜で表現している。

写真右／1階ホールーム。右手に畳2枚の小上がりスペース。中／ネオレストEXが設置され、グレードを感じさせるトイレ。左／広々とした御影石張りのバスルームは中庭に面し、自然の光や風も入る。夜は間接照明でまたガラリと雰囲気を変えられる。